南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-5 聖園女学院高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(1)学校としての戦略	(1)-1　スクールミッションの実現	(1)-1-1　スクールミッションの実現 南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」を教育活動の中で具現化できるよう「信念・精励・温順」を校訓に掲げ、女子教育を通して、確かな学力を身につけ、人間としての生き方を学び、一人ひとりが自分の使命を自覚して成長することができる生徒の育成を通して社会に貢献することを目指す。 目標達成に向けて2025年度にワーキンググループを設置しスクールミッションの具現化、具体化を検討する。この検討結果について、2026年度以降にステークホルダーへの周知を図る。	ワーキンググループを設置しスクールミッションの具現化、具体化を検討する。	ワーキンググループでの検討結果について、ステークホルダーへの周知を図る。				スクールミッションの実現に向けて、2025年度中にワーキンググループを設置し、スクールミッションの具現化、具体化を検討する。			
	(1)-2　教育連携の強化	(1)-2-1　南山大学との教育連携 南山大学夏期模擬講義をはじめ、校内で行われている南山大学との連携について、2025年度に改めて整理し、学びの成果について調査する。この結果をもとに、2026年度以降、生徒の実態に合った南山大学との高大連携の取り組みを実施する。これらの取り組みにより、南山大学への興味や，広く大学での学びについて興味・関心を高める。	各部署で行われている南山大学との高大連携の取り組みについて整理する。 取り組んだ生徒から，学びの成果について調査する。	生徒の実態に合った南山大学との高大連携の形を模索し，教育連携の取り組みを実施する。南山大学への進学への結びつきについて検証する。				南山大学模擬講義、哲学対話講座など、各部署で行われている南山大学との高大連携の取り組みや、その内容について整理する。また、取り組んだ生徒から、学びの成果について調査を行い、効果について検証を行う。			
		(1)-2-2　上智大学との教育連携 2023年10月1日付で締結した上智大学との高大連携協定を基に実施されている具体的な教育連携について，2025年度に取り組みの内容や参加している生徒の情報について整理する。2026年度以降は参加生徒について追跡調査を行い、教育連携が生徒の進路探究にどのように結びついているか、生徒のフィードバックや学力、進路への結びつきをもとに調査し、教育連携の成果を検証する。	上智大学とのカトリック校としての高大連携の取り組みについて整理する。	取り組んだ生徒から，学びの成果や進路への結びつきについて調査・検証する。				上智大学との高大連携協定を基に実施されている高大連携の取り組みについて整理する。希望者対象の取り組みについても、必要な生徒により確実に周知し、参加を促せるよう体制を整える。			
		(1)-2-3　清泉女子大学との教育連携 2024年8月1日付で締結した清泉女子大学との高大連携協定における具体的な教育連携について、2024～2025年度に検討する。2026年度以降は参加生徒について追跡調査を行い、教育連携が生徒の進路探究にどのように結びついているか、生徒のフィードバックや学力、進路への結びつきをもとに調査し、教育連携の成果を検証する。（この項目では2023年度から取り組んでいる「MISONO竹林プロジェクト」以外の取り組みを対象とする。参照：本計画(4)-2-1「聖園女学院の豊かな自然環境を生かした取り組み」）	清泉女子大学との高大連携の取り組みについて検討する。	取り組んだ生徒から，学びの成果や進路への結びつきについて調査・検証する。				清泉女子大学との高大連携協定に基づく具体的な高大連携の取り組みについて検討し、2025年度中に実施可能なものについては、取り組みを開始する。			
								【新規取組】 昭和医科大学との包括連携協定に基づく具体的な取り組みについて検討し、2025年度中に実施可能なものについては、取り組みを開始する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-5 聖園女学院高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
	(1)-3　財政改善に向けた定員充足に関する方策	(1)-3-1　高校入試 聖園女学院にふさわしい生徒を迎え入れる機会を広げるため、新たに2024年度入試として高校入試を開始した。これまで中高一貫教育を掲げてきたが、内部進学生に加え、公立中学校等で学んできた生徒も受け入れ、生徒が互いに刺激し合い成長できることを目指す。 当面はさらなる志願者を確保できるよう入試広報活動の強化に努めていくが、中学入試の定員充足状況に合わせ、2026年度に高校入試のあり方を見直す。また、2026年度の検討内容を踏まえ、2027年度以降に必要な対策を講じる。	―	中学の定員充足状況に応じて、高校入試の募集枠や入試内容、優遇措置などを見直す。	2026年度の検討内容を踏まえ、必要な対策を講じる。			―			
	(2)-1　グラデュエーション・ポリシーの実現	(2)-1-1　グラデュエーション・ポリシーの実現 ミッションスクールとしての価値観教育を基に、国や文化を越えて互いに理解し合い、世界平和と国際社会に貢献できるように、優れた知性、堅実な実行力、無償の愛をもつ女性を育てることを目的とし、豊かな感性と人間力を高める教育の実践と校訓の体現によって生徒を育てる。 2025年度にワーキンググループを設置しグラデュエーション・ポリシーの具現化、具体化を検討する。 2026年度以降、ワーキンググループでの検討結果について、ステークホルダーへの周知を図る。	ワーキンググループを設置しグラデュエーション・ポリシーの具現化、具体化を検討する。	ワーキンググループでの検討結果について、ステークホルダーへの周知を図る。				グラデュエーション・ポリシーの実現に向けて、2025年度内にワーキンググループを設置しグラデュエーション・ポリシーの具現化、具体化を検討する。			
		(2)-2-1　基礎学力の向上 2025年度以降も習熟度別授業や分級授業を継続することにより、生徒の理解を深める。また、放課後自習支援による大学生メンターとの学びの環境を整えることで、自立した学習態度を育み基礎学力の向上を目指す。 長期休業期間の補習・講習に加え、AI教材を活用し、個人の進度に合わせた学習の取り組みを実施する。AI教材については、利用状況を確認し2026～2027年度に内容の見直しを行う。	以下の取り組みを継続実施 ・習熟度別授業・分級授業 ・長期休業期間の補習・講習 ・AI教材活用 ・放課後自習支援	AI教材の内容の見直しを行う。				・2025年度中学数学(代数分野)において習熟度別少人数授業を中1～中3までの三学年で実施する。 ・長期休業期間の補習・講習は、教員指導の他、連携校や企業とのつながりを活用し様々な講座を設定する。 ・AI教材については、利用状況を確認し利用率向上のための方策を検討する。 ・2025年度も放課後自習支援を継続し、生徒の学習環境を整える。			
		(2)-2-2　総合的な学習・探究 総合的な学習・探究を通して資料を活用しまとめる力を育み、地域社会との関わりから新たな気づきを得るための活動を推進する。多くの経験や学びを得るために、2024年度より外部企業と連携し、学びの場を校外へ広げ大胆な教育活動を展開している。2025年度以降も地域施設との連携、外部企業との連携を通して、生徒の自立を促す活動を実施する。2027年度には外部企業との連携を活用し、探究講座やプログラミング講座などを実施する。実体験を通して得た発見や発想を社会のために活用し、未来を切り拓く女性の育成を目標とする。 中高現地研修については、2026年度より平和学習と探究学習をテーマに、聖園女学院に相応しい行程の変更を行う。	地域施設との連携、外部企業との連携を通して、生徒の自立を促す活動を実施する。	探究学習としての中高現地研修の改善を図る。 中学現地研修を長崎3泊4日へ、高校現地研修を沖縄3泊4日へ変更する。	外部企業との連携を活用し、探究講座やプログラミング講座などを実施する。			地域施設との連携、外部企業との連携を通して、生徒の自立を促す活動を実施する。 探究学習の成果を外部で発表したいと希望する高校生には、情報の提供と発表までのサポートを行う。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-5 聖園女学院高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
(2)教育・研究	(2)-2　カリキュラム・ポリシーの実現	(2)-2-3-1　海外研修・留学 中学1年次からMEA(Misono English Academy)で校内留学を体験し、海外で学習したいという意欲を育む。中学3年次ニュージーランド中期留学は中級者向けに、高１カナダ研修は初級者にも対応できるプログラムとして企画・運営している。さらに長期で学習したい生徒には高校1年次から１年留学を勧め、2025～2026年度にはより留学先として選ばれる場所を検討し、2027年度以降に実施・検証を行う。海外プログラムを継続的に広報し、2024年度より参加する生徒の人数を増やす。	1年留学先を複数検討する。		実施・検証・海外プログラムの継続的広報			2024年度もニュージーランド1年留学参加の申し込みはなかった。留学期間が高１の1月～高２の12月なので、高２の現地研修に行けなくなるのが原因の一つと考えられる。カナダ研修やダブルディプロマシステムでお世話になっているカナダのオンタリオ州で１年留学を実施できないか、検討をしていく。			
		(2)-2-3-2　"Global Friends" 本校生徒たちが留学生と対面し、コミュニケーションを取ることで多様な文化・価値観に触れ、相手を尊重し協力しようとする心を育むことを目的とした “Global Friends”を発展させ、生徒の国際性を涵養する。2025年度までに対面での方法を検討し、Zoomでの交流に加えて、留学生と直接対面できる機会も継続させる。	対面の方法を検討する。	"Global Friends"を継続実施する。				2024年度はGlobal Friends in Misonoを、南山大学国際教養学部の北村先生をお招きして、言葉の通じない環境でのコミュニケーションについてご講義をしていただいた。また、3月にはin Nanzanとして外国人留学生と対面しコミュニケーションを取るアクティビティに加え、留学生が日本語を学んでいる授業に参加し、どのように日本語を学んでいるか勉強する機会をいただいた。2025年も対面での活動を意識し、言葉の壁を乗り越えて自ら積極的にコミュニケーションを取れる機会を検討する。			
		(2)-2-3-3　ダブルディプロマシステム 日本に居ながら海外の授業を受けることができ、カナダと日本の高校卒業資格をダブルで取得できるシステムを促進させる。Ontario Virtual Schoolと連携し、ダブルディプロマシステムの説明会や体験会を企画していくとともに、奨学金を周知し広報していく。2027年度にはダブルディプロマ取得者を輩出し、2028年度以降は体験談を活かした継続的広報を行う。	ダブルディプロマシステムの継続的広報		ダブルディプロマ取得者を輩出体験談の取材	ダブルディプロマ取得者の体験談を活用した継続的広報		2025年度は4月に説明会を開催し、ダブルディプロマシステムの説明とデモレッスンを対面で行うとともに、奨学金を周知し広報していく。また秋以降も説明会を検討していく。			
		(2)-2-4　キャリア教育 現在行われている6か年の進路探究の取り組みを2025年度に整理し、2026年度以降、生徒が自己と社会のつながりを実感し、一人ひとりが望ましい進路選択ができるよう支援体制を整備していく。2027年度以降は、行われる進路探究の教育的効果について、生徒のフィードバックをもとに検証していく。 また、2030年頃に予定されている指導要領改訂に向け、2028年度より情報収集を行い、必要な進路支援体制を整えるための基礎とする。	６か年進路探究の実施内容を整理する。	生徒の実態に応じた６か年進路探究指導計画を整備する。	６か年進路探究について，生徒からのフィードバックを通じて効果を検証する。	学習指導要領の改訂に向け情報収集を行う。		現在行われている６か年進路探究の実施内容を整理し、生徒が自己と社会のつながりを実感し、一人ひとりが望ましい進路選択ができるような支援となっているかを検証する。			
	(2)-3　アドミッション・ポリシーの実現	(2)-3-1　中学入試（教科型一般入試） 自分を鍛え、自己の確立を目指す生徒を受け入れるため、小学校のうちから学習習慣をしっかりと身に着けた志願者を評価できるよう、今後も教科型一般入試を中学入試の中心に据えていく。 その中で志願者数を確保することはもとより学力も担保されるよう、2025年度と2028年度には入試日程や方式について検討する。	入試種別ごとに入学生の成績を追跡し、セレクト1科・セレクト2科・国算ハーフの継続について検討する。	首都圏の入試動向を注視する。		入試種別ごとに入学生の成績を追跡し、セレクト1科・セレクト2科・国算ハーフの継続について検討する。	首都圏の入試動向を注視する。	志願者の確保はもとより学力も担保されるよう、2期にわたり入試日程や方式について検討する。2025年度は1期目の初年度として、入試種別ごとに入学生の成績を追跡し、セレクト1科・セレクト2科・国算ハーフの継続について検討する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-5 聖園女学院高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
		(2)-3-2　中学入試（帰国生入試・特色型入試） 帰国生入試と特色型入試（特待適性検査型入試・英語チャレンジ入試）の認知度を高め、豊かな人間性を有する国際人を目指す生徒を積極的に受け入れていく。2026年度と2029年度には特待適性検査型入試の定員を増やすことについて検討する。	帰国生入試や特色型入試に特化した広報活動を引き続き行う。	特待適性検査型入試の定員を10名から15名にすることを検討する。	26年度の検討の結果、必要があると認められた場合は、28年度入試の定員を変更する。	帰国生入試や特色型入試に特化した広報活動を行う。	特待適性検査型入試の定員を15名から20名にすることを検討する。	豊かな人間性を有する国際人を目指す生徒を積極的に受け入れていくため、帰国生入試や特色型入試に特化した広報活動を引き続き行う。			
(3)施設・設備	(3)-1　「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく施設・設備の更新	(3)-1-1　災害時の避難所としてのマリアホール 災害時の地域避難所として指定されているマリアホールのエレベーターの整備を2025年度に実施する。	エレベーター整備					災害時の地域避難所として指定されているマリアホールのエレベーターの整備を実施する。			
		(3)-1-2　計画的な施設・設備の更新 聖園女学院施設設備拡充引当特定資産を活用し、「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく施設・設備の更新を行う。 2025年度にガイドラインに基づいた更新計画を立案し、検討結果を踏まえ、2026年度に2027年度以降の事業計画に関して予算化し、2027年度以降に実施する。	建物施設設備のライフサイクルに係るガイドラインに基づいた更新計画を立案する。	検討結果を踏まえ、2027年度以降の事業計画に関して予算化する。	事業計画を実施する。			施設設備拡充引当特定資産を活用し、建物施設設備のライフサイクルに係るガイドラインに基づいた更新計画を立案する			
		(3)-1-3　生徒が過ごしやすい環境整備 生徒が過ごしやすい環境整備について検討を進める。必要に応じて聖園女学院施設設備拡充引当特定資産を活用したり、財政的な裏付けについても検討する。 2025年度に環境整備について検討する会議体を設置し、検討結果を踏まえ、2026年度に事業計画に関して予算化し、2027年度以降に実施する。	環境整備について検討する会議体を設置する。	検討結果を踏まえ、2027年度以降の事業計画に関して予算化する。	事業計画を実施する。			環境整備について検討する会議体を設置し、生徒が過ごしやすい環境整備について検討を進める。			
(4)社会・地域貢献	(4)-1　社会貢献	(4)-1-1　ボランティア活動 社会福祉施設「聖園子供の家」でのボランティア活動、各種支援のための募金活動を継続して実施する。聖園祭・クリスマス行事でのチャリティーの純益金をこれまで同様に社会福祉活動、国際協力援助のために寄付する。 2023年度よりスタートしたWARM HEARTS COFFEE CLUBの活動は、NPO法人せいぼと連携し、国際協力援助について、カトリック的SDGs探究として取り組む。	「聖園子供の家」ボランティア・聖園祭、クリスマス行事でのチャリティー・WARM HEARTS COFFEE CLUBの活動					「聖園子供の家」ボランティア活動を実施する。WARM HEARTS COFEE CLUBの活動は、カトリック的SDGs探究として、国際協力援助に取り組む。聖園祭、クリスマス行事でのチャリティーの純益金を社会福祉活動、国際協力援助のために寄附する。			
	(4)-2　地域貢献	(4)-2-1　聖園女学院の豊かな自然環境を生かした取り組み 本校の豊かな自然環境を生かした取り組みとして、2024年度より「MISONO竹林プロジェクト」をスタートした。校外との連携（金子牧場竹炭くらぶ・清泉女子大学地球市民学科 安斎徹教授ゼミ）により、創造的な体験的探究活動を目指す。製品化された物は、聖園祭で販売する。	・野鳥観察の再開 ・『竹炭』の探究とブランディング 製品化したものを聖園祭で販売する。 ・竹とSDGｓへの取り組み。					・カメラ付巣箱を設置し、野鳥観察を再開する。 ・自然環境教育の一環として、創造的な体験的探究活動に取り組む。『竹炭』の探究とブランディングに取り組み、製品化された竹炭は、聖園祭で販売する。			
(5)財政計画	(5)-1　学納金改定	(5)-1-1　「基準財務シミュレーション」に基づく「南山学園財務に係る中長期目標」を実現するために、定員充足率や入試動向を考慮しつつ必要な時期に学納金改定を実施する。 2024年度に2026年度からの学納金改定（第1期、第2期）について理事会で審議する。 その後、2027年度には2029年度からの学納金改定（第2期）の理事会手続きを実施する。	2024年度に2026年度からの学納金改定（第1期、第2期）を理事会決定する。	学納金改定（第1期、月額3千円増額）を実施する。	2029年度からの学納金改定（第2期）の理事会手続きを実施する。	―	学納金改定（第2期、月額3千円増額）を実施する。	「基準財務シミュレーション」に基づく「南山学園財務に係る中長期目標」を実現するために、2026年度からの学納金改定（第1期、第2期）について理事会決定する。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2　個別計画

《2-5 聖園女学院高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価(:1)	中期計画評価(:1)
	(5)-2　教育環境整備を目的とした寄附金のさらなる獲得	(5)-2-1　寄附金 学生生徒等納付金以外の収入としての寄附金の戦略的かつ組織的な獲得を目指し、必要な対応策を検討・実施する。あわせて2026年度に本校創立80周年を迎えることから2026年度から2029年度にかけて「創立80周年記念募金」を実施するために必要な手続きを2025年度に進める。	→ 「創立80周年記念募金」を実施するために必要な手続きを開始する。	→ 「創立80周年記念募金」の募集を開始する。			→ 「創立80周年記念募金」の募集を終了する。	学生生徒等納付金以外の収入としての寄附金の戦略的かつ組織的な獲得を目指し、「創立80周年記念募金」を実施するために必要な手続きを開始する。			
(6)組織運営と人材育成	(6)-1　組織運営	(6)-1-1　計画的な採用活動 中・高の定員充足に向けての入試改革と広報活動を進める中で、教員の年齢構成及び専任教員数の適正化に努める。 2025年度に数学科で1名を期限付講師から専任に切り替えて採用する。また社会科専任枠を2029年度まで時限的に転用し英語外国人期限付講師を採用し、現職2名の外国人教員の定年退職、再雇用後の任期満了に備える。 2026年度には、中学と高校入試の実績を踏まえ、1名ないし2名の期限付講師募集を専任募集に切り替える。 前年度採用の外国人教員については、勤務状況を見ながら、必要に応じて期限付講師募集を専任募集に切り替えを検討する。 2029年度にはクラス数、生徒数の状況を見て、次期中期計画に向けて、専任の充足状況を検証する。	→ 数学科で1名を期限付講師から専任に切り替えて採用する。 → 社会科専任枠を2029年度まで時限的に転用し英語外国人教員を採用し、現職2名の外国人教員の定年退職、再雇用後の任期満了に備える。	→ 中学と高校入試の実績を踏まえ、1名ないし2名を期限付講師募集から専任募集に切り替える。 前年度採用の外国人教員の勤務状況を見ながら、必要に応じて期限付講師募集を専任募集に切り替えを検討する。			→ クラス数、生徒数の状況を見て、次期中期計画に向けて、専任の充足状況を検証する。	数学科では、2023年度の中学1年から代数分野で習熟度別受授業を開始しており、年次進行で2025年度には中学3年まで拡充となる。また2024年度に3クラス設定となった中学1年は年次進行で中学2年で3クラス設定となる。これらにより一層の安定的な授業実施を期す必要がある。そのため1名を期限付講師から専任に切り替えて採用する。 本校の特徴的な英語・国際教育の継続、発展のためと、現職2名の外国人教員の定年退職、再雇用後の任期満了に備えるために、先行的に英語外国人教員を採用する。採用に当たっては社会科専任枠を2029年度まで時限的に転用し対応する。			
	(6)-2　人材育成	(6)-2-1　職員研修の継続実施 防災、個人情報、ハラスメントなど、人材育成上、その時期に研修が必要なテーマについて検討し、定期的に職員研修を実施する。 今後もテーマに応じ学園関係者を講師として派遣してもらえるように相談するとともに、神奈川私学中高協会、コアネット教育総合研究所の研修を活用する。	→ 人材育成上、その時期に研修が必要なテーマについて検討し、定期的に職員研修を実施する。					例年8月末に設定している教職員研修日に、個人情報取扱、ハラスメント、防災（救命救急）のいずれか一つないし二つの研修を実施する。講師とテーマの検討に当たっては学園総合企画室に相談する。			

*1) 評価欄は、〇（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
進捗を把握するため〇（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。